

教育目標	
その子らしさを大切に たくましく生きる力の基礎を培う	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 一人一人の子どもを大切に、多様な子どもたちの違いを個性として受け止め、かかわってきた。また、子どもの姿や状態をよく見て、担任一人で抱え込むのではなく、教職員全員で子どものことを把握し共通理解をして援助してきた。しかし、まだまだかかわりが不十分であったり、保護者と話す時間が十分にとれなかったりするので、次年度は、より子どもや保護者とのかかわりを十分にもち、子どもたちが自立し、人と協力し助け合い、認め合える力をつけていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 いろいろな子どもがいる中、集団で活動が苦手な不安になり、落ち着かなかったりその場から離れたりする子どももいる。先生方は、一人一人大切にしてくれて本当によくかかわってくれていることもよくわかる。もっとかかわる大人が必要な場合、小学校の教員や地域の方にも動員をかけ、たくさんの人で子どもをみることもできるので、遠慮なく行ってほしい。 幼稚園で過ごす月日はとても早く、小さい時から見ていた子どもが来年小学校に上がると思うと、心がとても熱くなる。この幼児期を大切に親子で過ごしてほしいと思う。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和6年11月8日	学校運営協議会
最終評価	令和7年2月28日	学校運営協議会

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組
・子どもや保護者との信頼関係をしっかりと築き、親子共に安心安全に楽しく過ごせる幼稚園を目指し取り組んでいく。 ・子どもの行動や姿のみに捉われず、子どもの思いを丁寧に見取り、内面を理解してかかわり、一人一人の思いに沿ったかかわりを大切にして保育を進める。 ・多方面から子どもの姿を捉え、記録したり、日々子どもの姿を教職員間で話し合ったり、保育を振り返ったりして保育の充実を図る。また、教育委員会や専門機関の先生から学んだことを活かし保育の質を高める。 ・教師も一緒に遊び、自ら遊びたくなったり表現したくなったりする環境や自然に触れたりいろいろな体験を通して学べる内容を考える。 ・子どもが安心して自分の素直な思いが出せたり、居心地が良いと感じられたりするクラスづくりを目指す。 ・ICTを保育に取入れ、子どもが経験や学びを深めていく。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・日々の保育や園内研究保育、記録やエピソードなどを通しての研究協議
- ・週案の反省、評価、改善 保育環境の構成及び検証
- ・アンケート項目「幼稚園に楽しんで通っている」「自分から遊びを見つけ、楽しんで遊んでいる」「友達と遊ぶことが好きである」「自分の思いや考えを言葉で伝えている」「体を動かして遊ぶことが好きである」「絵本やお話が好きである」「動植物を大切にしている」

中間評価

各種指標結果

- ・子ども一人一人の言動や表情などから、思いを受け止め、教員で子どもの良さや可能性、課題等話し合い教師の援助や保育内容を考えきた。また、担任だけでなく教員全員で環境構成を行い見直し実践してきた。
- ・アンケート項目より 回答者（保護者 35 名 教職員 12 名 計 47 名）
A よくあてはまる B あてはまる AB 両方の%
「幼稚園に楽しんで通っている」(A34/47 B10/47 93%)
「自分から遊びを見つけ、楽しんで遊んでいる」(A31/47 B12/47 92%)
「友達と遊ぶことが好きである」(A32/47 B12/47 94%)
「自分の思いや考えを言葉で伝えている」(A18/47 B19/47 79%)
「体を動かして遊ぶことが好きである」(A33/47 B11/47 94%)
「絵本やお話が好きである」(A25/47 B19/47 91%)
「動植物を大切にしている」(A16/47 B22/47 81%)

自己評価

分析（成果と課題）

保護者の方から「子どもが幼稚園のことが大好きです」「子どもが楽しみに通う姿が嬉しい」「一人一人に合わせて良いところを引き出しながら保育をされているのがわかり、子どもも先生たちの事をよく慕って楽しんで過ごしています」「あー幼稚園楽しかったと子どもがつぶやいています」等のご意見をいただいている。しかし、昨年度より、評価が全体的に低かったり、自由記述欄への記入が少なかったりしたので、保護者の方に安心して子どもを預けていただけるように、この結果を真摯に受け止め改善していきたいと思う。また、週案及び日々の記録やエピソードから保育を振り返ったり、教育委員会の先生に来ていただき研究保育をして、教師のかかわりや環境構成について学んだりしてきた。これからも、一人一人の子どもの姿を丁寧に読み取り、日々、子どもの内面理解に努め、子どもの発達や育ちを考え、子どもが楽しめる環境を整えていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

「子どもが安心して通える幼稚園である」のみ AB 合わせて 100% だった。「幼稚園に楽しんで通っている」「自分から遊びを見つけ、楽しんで遊んでいる」など、昨年度より評価が低くなっている項目については、子どもがもっと遊びが楽しめように、保育内容を見直し子どもが興味や関心をもって遊べるように改善する。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

前期に準ずる。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

アンケート結果を見ると、推移はどうなっているのか。昨年と比べて、評価はよくなっているのか。悪くなっているのか。評価項目は、保護者の価値観で評価するので、厳しく捉える人や甘い捉える人などまちまちである。また、どう答えていいかわからないという意見もある。

価	評価項目の設定については、教育委員会の学校教育の重点をもとに考え作成している。 この項目を大切にしているということを保護者に知らせているということであり、できたできないということだけでなく、このようになってほしいという願いも込めて作成している。 インクルーシブ教育と最近よく聞くようになったが、西院では前からいろいろな子どもがいてその中で育った子どもたちは、みんなが優しく育ち前向きに育っている。
---	---

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・子どもの姿をよく観察し、内面理解を図り子どものことについて日々話し合ってきた。また週案やエピソードを検討や見直し、発達を意識した環境構成やかかわりを検討し実践してきた。 アンケート項目より 回答者（保護者 36名 教職員 13名 計49名） Aよくあてはまる Bあてはまる AB両方の% 「幼稚園に楽しんで通っている」(A39/49 B9/49 100%) 「自分から遊びを見つけ、楽しんで遊んでいる」(A37/49 B9/49 96%) 「友達と遊ぶことが好きである」(A37/49 B8/49 94%) 「自分の思いや考えを言葉で伝えている」(A24/49 B17/49 85%) 「体を動かして遊ぶことが好きである」(A39/49 B9/49 97%) 「絵本やお話が好きである」(A32/49 B14/49 96%) 「動植物を大切にしている」(A24/49 B20/49 84%)
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 幼稚園に楽しんで登園している子どもは100%である。その他の項目もほぼ良好である。また、「安心して幼稚園に預けることができる」「いろいろな経験が出来て楽しんでいます」「一人一人の個性を生かした絶妙な声かけをされて、子どもも毎日楽しく幼稚園に通っています」などの声をいただいている。信頼関係を基盤に、一人一人を大切にした保育を展開することは、達成しつつある。次年度、さらに、保護者と話す時間を多く持ち、改善しながら、安心して園に預けてもらえるように努めていきたい。 分析を踏まえた取組の改善 「友達や先生、幼稚園で遊んだことも教えてくれる」「のびのびと活動できている」という声がかかれるが、まだまだ園での様子や自分の思いを伝えにくい子どももいたり、小動物とのふれあいが少ないと思われていたりしているので、次年度は、身近にかかわれるような環境を用意し活動の中にしっかりと触れ合う時間を取り入れていく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 今年度も、学び部会の方を中心にPTAが絵本ボランティアとして活動している。餅つきや焼き芋などの経験も保護者も共に楽しんでいた。 公園清掃や登園していく保護者の様子を見て、子どもたちの成長を感じている。

（２）架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

具体的な取組 ・保幼小互いの授業や保育を参観し研究協議をしたり、教員同士の研修を行ったりして、幼小接続に向けて保育の充実を図る。 ・保幼小の交流や教員同士の研修の内容を保護者や地域の方に伝え、安心して小学校へ就学できるよ
--

うにする。
(取組結果を検証する) 各種指標 ・ 小学校や地域の保育所幼稚園との研究協議の結果 ・ 小学校や地域の保育所幼稚園の地域の保育所幼稚園の教員の方からの保育参観後のアンケート ・ アンケート項目「幼稚園・小学校・保育所との連携ができています」 ・ 保幼小交流時の子どもの様子

中間評価

	各種指標結果 ・ 地域の小学校保育所の教職員同士のかかわりを通して話し合うことはでき、幼稚園理解や子ども理解を共に図ってきた。 ・ アンケート項目「幼稚園・小学校の連携ができています」 (A24/47 B17/47 87%)
自己評価	分析 (成果と課題) 毎年小学校と連携ととっていたが、今年度は幼保小架け橋プログラムとして年間計画を立て実行することができた。まずは、6月に幼稚園や保育所の教員が1年生の授業参観に行き、その後研究協議を行った。また、8月には、幼保小の教員が京都府幼児教育研究協議会の動画を視聴し、グループ協議を行い、保育所や幼稚園の保育を話し、小学校との違いについて学んだ。今後、生活科の授業等に参加させていただき、園児と児童の交流を行ったり、11月は幼稚園の保育を参観してもらったりして、考えていきたい。架け橋プログラムについて深めていきたい。 分析を踏まえた取組の改善 小学校の先生方との話し合いは、昨年に引き続き2回目となりたくさんの先生方と協議することができたが、保育所の先生方とは限られた方としか話し合うことはできなかった。今度、たくさんの先生方と協議をもち、話し合ったことや学んだことを保育に生かし、保護者にも知らせたい。 (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 前期に準ずる
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 幼稚園保育所小学校とのかかわりは、中学校も含め昔から校園連盟といってつながりが深く、地域が媒体となっている。 先生たちがかなり意識をもって学ばれていることがよくわかる。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・ 小学校に出かけ、1年生と交流をしたり、年長児と1年生が給食交流をしたりすることで交流連携していることがわかりやすく保護者に伝わった。西院小学校と近隣の保育園幼稚園の教員研修を年に3回行うことができた。 ・ アンケート項目「幼稚園・小学校の連携ができています」 (A29/49 B16/49 94%)
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 今年度は、小学校だけでなく、近隣の保育園と共に研修をもてる体制を整うことができた。11月には、保育園の先生方も幼稚園の研究保育や協議に参加してもらったり、互いの絵画展を見合っ

価	た り、生活発表会には参観に来てくださったりして交流が深まった。幼稚園・小学校の連携ができているという項目は中間評価よりも、7%アップした。
	分析を踏まえた取組の改善 年度当初に年間計画を交流や研修の充実を図る。また、今年度の話し合いをもとに改善し、次年度に積み重ねていきたい。
学 校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 西院は昔から校園連盟というものがあり、幼保小架け橋プログラムはやりやすい地域である。また、地域で子どもを見守り、子育てをするという思いをもっている方々が多いので、つながりがもちやすい。

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組 ・担任、預かり保育担当者、保健職員の連携を密にして、子どもの心身の負担に配慮しながら保育を考えるようにする。健康管理、親子関係、人間関係などを共通理解し、同じ方針で取り組む。 ・家庭との緊密な連携を図り、情報交換しながら、家庭の負担も少なくし、子どもを共に育てるという思いで取り組む。 ・地域の方などの外部講師を招き、いろいろな催しを行い、子どもの経験が豊かになるようにする。 ・早朝預かり保育や18時まで預かり保育を行い、働く保護者支援を十分に行う。
(取組結果を検証する) 各種指標 ・預かり保育の記録内容 参加人数 ・アンケート項目「子どもは預かり保育に喜んで参加している」「預かり保育の様子がよくわかり安心できる」

中間評価

各種指標結果	
・ 預かりに参加している子どもの様子や言動から、子どもの姿を探る。 預かり保育参加者も少しずつ増えてきている。	
アンケート項目	
「子どもは預かり保育に喜んで参加している」((A31/47 B10/47 87%)	
「預かり保育の様子がよくわかり安心できる」((A26/47 B17/47 91%)	
自己評価	分析 (成果と課題)
	早朝預かりや18時まで預かり保育を利用する家庭が増えてきている。 一人一人が安心して参加できるように担任と預かり保育担当者が連携を取りながら、子どもの心や体調を考え参加できるように努めている。預かり保育を楽しみにしている子どもも多く、異年齢の関わりも十分にできている。未就園児3歳児の預り保育利用者も増えている。 いろいろな経験を大切にしたいと思い外部講師の方に園に来ていただきサッカー教室や絵本の読み聞かせ、英語で遊ぼう、つくって遊ぼうなどイベントを行っている。イベントのある時は参加者も増え楽しんでいる。

	分析を踏まえた取組の改善 預かり保育に楽しんで参加する子どもが増えてきた。早朝や 16 時以降預り保育を利用する子どももかなり増え、安定し、落ち着いて過ごしている。 3 歳児の預かり保育参加もかなり増え、3 歳児が利用する場合、安全に過ごせるように場の確保や過ごし方を考え、参加する楽しさが味わえるようにしていく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 前期に準する
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 子どもが楽しんで幼稚園に通い、預かり保育も楽しんでいることはとても良い。 「たくさん預かり保育に入りたい」「6 時まで、預かりをしてほしい」という声を子どもから行くことが多いので、預かり保育が楽しいのだと思う。

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・預かりを楽しみにして参加者も増えている。 アンケート項目 「子どもは預かり保育に喜んで参加している」(A35/49 B 8/49 93%) 「預かり保育の様子がよくわかり安心できる」(A27/49 B16/49 94%)
	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 子どもは預かり保育に喜んで参加している項目は 6 %アップ、預かり保育の様子がよくわかり安心できるは 3 %アップした。未就園児 3 歳児の利用者は、今年度兄弟もいることからか参加が増えていた。4 歳児 5 歳児については、イベントを行う時は参加人数が増加し楽しみにしている子どもが多い。働いている方も増えてきているので、これからも預かり保育を充実させ、安心して子どもたちが過ごせる場を提供していきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 預かり保育を楽しみにして参加している子どもが多くいる。未就園児 3 歳児の参加が増えてきているので、安全に過ごしていきたいと思う。また、3 歳児は疲れやすくお家を人を恋しがるときもあるので、子どもの気持ちに寄り添いながら預かり保育が楽しめるようにしていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 働く保護者も増え、預かり保育を毎日入れておられる家庭も増えてきた。預かり保育はとても助かっておられるだろう。

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組 ・保護者や子育て支援教育相談にこられる方からの子育てや子どもについての相談をしっかりと聞き不安解消につながるようにする。 ・子どもの安全な遊びの場を提供し、保護者が相談しやすい雰囲気づくりに努め、子育てを楽しむ

み、子どもの成長を喜び合える保護者同士の場となるようにする。（教職員からの挨拶や声かけ） ・ 幼稚園の内容を知っていただくために、ホームページや手紙などで発信する。 ・ 保護者から相談しやすい雰囲気をつくり、相談には丁寧に答えていく。 ・ 子育て学級「ぼちぼちいこか」を開催し、保護者の方同士が気軽に話せたり、時には専門の先生の話の聞いたりする場を設ける。 ・ マイ幼稚園として登録していただき、一緒に子育てを楽しめるようにする。
（取組結果を検証する）各種指標 ・ 子育て支援教育相談の参加人数、相談件数 ・ 園児の増加人数 ・ 教職員の意識調査アンケート「未就園児の親子の顔と名前が一致している」「未就園児の親子に必ず挨拶をしている」・子育て支援教育相談の参加人数、相談件数

中間評価

自己評価	各種指標結果 2歳児ぷちいちご組があることで2歳児の子どもにとっては週2回通えるようになり、決まって登園してくれる親子が増えた。 毎週、新しい親子が増えて参加している。 いつも明るい挨拶を教職員は心がけている。また、何度も通っている未就園児の親子の方は、ほぼ名前と顔は一致している。
	分析（成果と課題） 教職員は3歳児いちご組クラスの親子については全員把握しており、一人一人の子どもの姿等について話し合い共通理解をしている。ぷちいちご組とひよこ組については、毎週参加して下さる方についてはだいたい把握している。 運動会に3歳児いちご組のプログラムを入れたり、未就園児のかけっこをしたりして、未就園児クラスの保護者にも在園児の姿を見ていただく機会をもてた。これからも、在園児の姿を通して西院幼稚園の保育を知ってもらいたい。 開放しているのは保育室と園庭なので、これから寒い時期になると、保育室が密になるので、懸念されるので、十分な場所を確保し、安心して遊べる環境を用意していきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 未就園児クラスの保育の充実を図り、安心して親子共に参加できるようにしていく。西院幼稚園の未就園児クラスを多くの方に知っていただき利用者の増加につなげていきたい。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 前期に準ずる。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 小さな子どもたちが減ってきている。 ぷちいちご組（2歳児）の登録が増えてきてよかった。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 1年間を通して8～12組ぐらいの親子が通ってきた。イベントがある時は15組～20組の親子が参加された。一度のみの参加者、途中から来られなくなった参加者もいるが、1年間を通して通ってくれ

たり何度も通ってくれたりする未就園児の親子もいた。	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 毎回、新規の登録者数はあるが、定着するのは難しい。2歳3歳の誕生日を迎えたら、他園に行かれる方も多く、反対に秋を過ぎた頃から0歳～1歳児の子どもが増えていく。1年を通して、参加してもらえる人間関係築いたり、未就園児の遊びの場を充実させたり相談しやすい雰囲気を大切にしていく。
	分析を踏まえた取組の改善 保育室にたくさん人が入ると遊ぶ場所がなくなったりが狭くなったり、落ち着かなかつたりするので安全に落ち着いて遊べる環境を整えていきたい。また、相談しやすい場を用意していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 親子で過ごす場を探しておられる人は多い。いろいろな施設をめぐる人も多い。家に閉じこもっていたり、孤立したりする親子が増えてきている中で、公立幼稚園がその親子をしっかりと受け入れてほしい。

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組 ・月一回の公園清掃を通し、公共の施設を大切に使う意識をもつ。 ・地域の方とのつながりを大切にし、地域で大切にされているという思いが感じられるようにする。 ・学校運営協議会の方による幼稚園教育の参画の充実を図る。 ・企画委員会による絵本室の壁面づくりや絵本の修理をして活動していただく。
（取組結果を検証する）各種指標 ・園の行事にできる範囲で地域の方に参加してもらい、ご意見をいただく。 ・学校運営協議会企画推進委員会による園行事の参画結果

中間評価

各種指標結果 地域の方との合同の公園清掃を月1回行っている。保護者の方も一緒に行うので地域の方とも顔見知りになり、自分たちの身近な公園を大切にしようという意識を今年ももつことができた。学校運営協議会の方や企画推進委員、ボランティアの方にお世話になり、月に一度、絵本室の掲示物を季節ごとに変えていただいたり、絵本の修理をしていただいたりしている。	
自己評価	分析（成果と課題） 地域の方とのかかわりがかなり増えた。公園清掃を共に行ったり、子どもたちのために修理や掲示をしていただくことで、地域の方に守られていることや大切にしているという思いが実感できているように思う。
	分析を踏まえた取組の改善 公園清掃や絵本整理はかなり定着してきた。また回数を重ねる度に、親しみを感じ仲よくなれた。これからも、地域の方に園に来ていただく機会を増やし、地域の中にある西院幼稚園を目指していきたい。

	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 前期に準する
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 西院には伝統文化や芸術として春日祭りや六斎念仏がある。地域でこの文化を継承し、子どもたちがかわってほしい。 自分たちの居場所が西院にあるということを知り、地域全体で、子どもたちを見守りたいと思っている。

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果 隣接した公園を地域の方との共に清掃を月1回行うことで、自分体たちの地域、公園をきれいにするという気持ちももてた。 ふれあいコンサートふれあいまつりに参加することができた。 学校運営協議会の方や企画推進委員、ボランティアの方にお世話になり、絵本室の掲示物を季節ごとに変えていただいたり、絵本の修理をしていただいたりして充実している。
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 公園清掃では、より一層地域の方々とのかわりができた。地域のふれあいコンサートやふれあいまつりに出かけることで、西院幼稚園をたくさんの方に知っていただく機会になった。 絵本ボランティアさんの活動により、今まで教職員で行ってきた絵本室の環境準備をしていただき絵本室の充実を図ることができた。
	分析を踏まえた取組の改善 これからも、地域の方とのかわりを大切にしていきたい。 また、絵本ボランティアだけでなく、他の活動にも参画してもらい、子どもと保護者と地域とみんなが楽しめる幼稚園づくりを目指していく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 地域はいつでもみているし見守っている。何かあったら、なんでも言ってほしい。 次年度も、いろいろな活動を共に行っていきたい。

（6）教職員の働き方改革について

重点目標 働きがいのある職場づくりを目指す。
具体的な取組 ・教職員が進んで積極的に働き、自分の業務をきちんと行ったりする。 ・仕事の効率化を図り、勤務時間内で仕事を終えるようにする。 ・校務支援員の任用や、仕事を分担したり、声を掛け合い協力して仕事をしたりする。
（取組結果を検証する）各種指標 ・教職員の勤務状況や年休取得はどうか。 ・保護者の方が声をかけやすい環境を整えているか。

中間評価

自己評価	各種指標結果 ・年次休暇の取得の増加、仕事内容の見直しを図り、時間外勤務を少なくしてきた。 ・教職員全員が子どもを大切に考え、自分から声をかけ、親身になって相談にのっているか。
	分析（成果と課題） ・非常勤講師や校務支援員や育成支援員の配属により、一人当たりの業務の軽減につながっている。 ・保護者の方に協力いただき、年休取得促進日を設けることができ、年次休暇の取得につながっている。
	分析を踏まえた取組の改善 教職員みんなで協力し、助け合いながら業務を進めていく。勤務時間内に業務終了できるように、時間配分を考えて業務に取り組む。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 前期に準ずる。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 地域の取り組みであるふれあいコンサートは、昨年までは土曜日開催だったが、今年は、先生たちが休日に参加しなくてもいいように平日開催とし、働き方改革につながるように行った。 また、生涯学習部作成の動画を見ていただき、納得していただいた。

最終評価

自己評価	（中間評価時に設定した）各種指標結果 行事前や年度末は、かなり勤務時間を過ぎてしまう教員がいた。わが子の行事や病気の時、また幼児がある時などは、休みやすい体制をとってきた。
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 仕事の分散はできたものの、ある一方に仕事量が多くなった。また、後半につれ勤務時間以外にも業務をするようになった。仕事内容の見直しを図り勤務時間内に終われるようにみんなで協力していきたい。 働き方の改革のリーフレットを11月8日の学校運営協議会の方に配布してご理解を得た。 また、ボランティアをとりいれることで教職員の仕事の軽減につながれるようにしていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 教職員の得意なことを生かし働き方を考えていきたい。
	学校関係者による意見・支援策 生活発表会の時、たくさんの教職員をみた。みなさんよく動いておられた。 しかし、多様な子どもたちが増え、人が足りない時は、協力したので言ってほしい。